

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 28 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21730127

研究課題名（和文） 有権者の「失望」、「不安」、「期待」と政権交代の可能性

研究課題名（英文） Voters' "Disappointment," "Anxiety," and "Hope" and the Possibility of Change in Government Leadership

研究代表者

飯田 健 (Takeshi Iida)

神戸大学大学院法学研究科・特命講師

研究者番号：50468873

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、与野党に対する有権者の「期待」と「失望」とがどのようにして形成されるのかという問いに答えるべく世論調査データ分析と社会科学実験とを組み合わせることによって理論構築および実証分析を行い、ひいては今後の日本政治における政権交代のメカニズムを明らかにすることであった。研究の結果、主に次のことが明らかになった。

- ・ 政権交代をもたらすような、有権者の投票行動は有権者の間での与党に対する失望と野党に対する期待との同時的な高まりによって起こる。
- ・ 与党に対する失望と野党に対する期待とは、「同じコインの裏表」ではなく、別のものであり、与党に対する失望が自動的に野党に対する期待を生み出すわけではない。

研究成果の概要（英文）：

This project examines how Japanese voters become hopeful for and disappointed in political parties through survey data analysis and social science experiments. It also aims at constructing a theory to explain the mechanism under which change in government leadership happens. The main findings include the following:

- A simultaneous rise in disappointment and hope lead to higher voter participation and a swing for an opposition party.
- Voter support for opposition parties and their disappointment in a ruling party are not two sides of the same coin, meaning that a decline in popularity of a ruling party does not lead to a surge in support for an opposition party.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政権交代、総選挙、投票行動

1. 研究開始当初の背景

わが国において 55 年体制成立以降、選挙

結果を受けての政権交代は1993年の1回しか行われていない。しかしそれに類するような与党の選挙における敗北という現象はしばしば観察されてきた。では、なぜこうした「ブーム」とでもいべき体制を揺るがすような有権者の投票行動は起こったのか。これまで各選挙ごとにその時々の状況に照らし合わせて、さまざまな説明が試みられてきたが（例えば蒲島(1992, 1994)、水崎(1992)、池田(1994)、未だ一般的かつ体系的な説明は提示されていない。一方、アメリカにおいては政権交代の体系的な説明はしばしば研究者の関心を集めてきたが（例えば Lichtman (2000)参照）、それを政治制度や歴史的背景が異なる日本にそのまま当てはめることは困難である。本研究では、日本の政治状況を踏まえた上で、有権者の政党に対する感情の分析を通じて選挙ごとの「後付け」的な説明ではない、体系的かつ将来の帰結の予測をも可能なモデルの構築を目指す。

このような研究関心は申請者のこれまでの研究の延長線上に生まれてきたものである。申請者は、これまで日本の有権者の内閣に対する支持の要因として政党支持に着目して分析を行い、政党支持の内閣支持に対する影響は80年代半ば以降低下していること、また連立政権内の支持する政党の特性（例えば、どのくらいの期間存続するか、どの程度政権内で影響力を発揮しているか）によって政党支持と内閣支持の結びつきが異なるということを明らかにしてきた。しかし、その研究において、政党に対する有権者の評価は単に「支持するかどうか」、あるいは「温かい感情をもつかどうか」といった一面的あるいは一次元的な評価によって測定されており、政党支持の内閣支持への多様な影響を分析するに当たってはあくまでその時々の歴史的状況に照らしてその意味を解釈するより他無かった。有権者の政党支持を取り巻く感情は様々であるということが示唆されたところで、結局それ以上深く有権者の政党評価の意味を掘り下げ、それを内閣に対する支持と結びつけることができなかつたのである。ここに、そうした有権者の政党支持と内閣、ひいては与党や政府に対する支持との間にある有権者の政治心理の「ブラックボックス」を解き明かし、その時々の政治状況に依存しない一般的なモデルを構築する必要性を強く感じる事となった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、諸政党や政府に対する「不安」、「期待」、「失望」、「満足」といった有権者の感情がどのようにして投票行動に影響を与えるかという問いに答えるべく理論構築および実証分析を行い、ひいては可能な政権交代のメカニズムを明らかにするこ

とである。

3. 研究の方法

本研究では、政権交代のメカニズムを明らかにするための仮説を主に世論調査データを用いて検証する。

今後日本で政権交代が起こるとすれば次のようなシナリオが最も可能性が高いであろう。それは、「①普段は選挙に参加しない有権者の多くが投票参加する（その結果投票率が上昇）。②そしてそれらの有権者の過半数が野党に投票する」、というものである。これはどのような条件下で可能であろうか。まず①について考えたとき、これまでの政治学の知見から明らかなのは、政権に対して強い不満、すなわち「怒り」を感じた有権者は投票参加するということである（例えばリード(1996)、木村(2003)）。さらに②について考えたとき、与党と比較の対象となる現実的な選択肢として、有権者が野党に対して「期待」をもてる時にのみ、そうした有権者は民主党に投票するであろう。

すなわち、政権交代には政権に対する有権者の「怒り」と野党に対する「期待」が必要である。このどちらかが欠けても政権交代は困難である。例えばいくら有権者が政権に怒りを感じようとも、そもそもその怒りの「受け皿」として期待がもてる野党が無い限りは、投票参加しないであろう。また、野党に対しても政権党と同じくらい期待がもてたとしても、そもそも政権に対する怒りが無い限り、選挙に行き野党に投票する積極的理由はないであろう。政権交代は、政権に対する怒りと野党に対する期待によって（普段は選挙に参加しない）有権者が選挙に参加し、実際に野党に投票することによって実現すると考えられるのである。

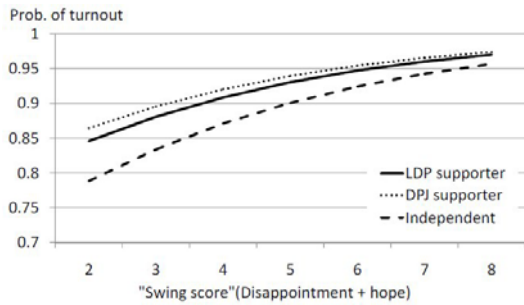
以上のような政権交代のメカニズムに関する仮説を世論調査データを用いて検証した。

4. 研究成果

①投票参加について

与党に対する失望と野党に対する期待とを同時に感じることによって、投票する確率が、自民党支持者、民主党支持者、無党派の何れも高くなる（図1）。

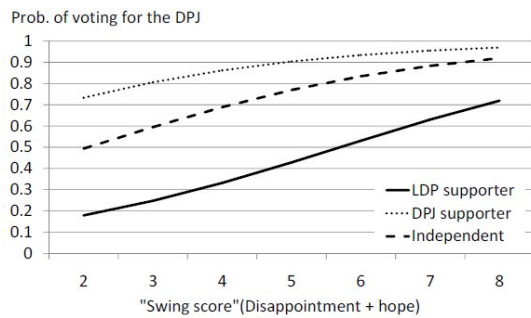
図1. 失望と期待が投票参加に与える影響（2009年総選挙）



②投票方向について

与党に対する失望と野党に対する期待とを同時に感じることによって、民主党に投票する確率が高くなる(図2)。この効果は無党派にとりわけ見られる。

図2. 失望と期待が民主党投票に与える影響(2009年総選挙)



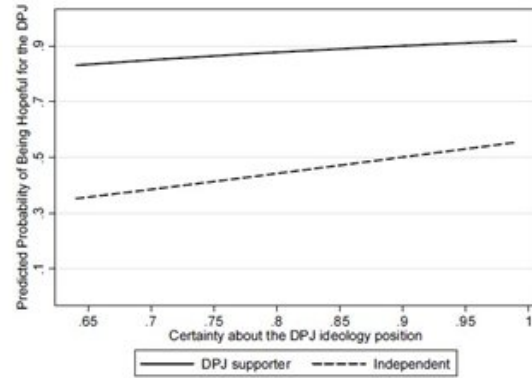
③なぜ野党に対する期待が高まるのか

本研究を通じて与党に対する失望と野党に対する期待とは「同じコインの裏表」ではないということが明らかになった。この傾向は2009年の政権交代後顕著である。すなわち、与党民主党に対する失望感の高まりは、野党自民党に対する期待に結び付かない。この問題は、日本における政権交代のメカニズムを明らかにする上で重要であると考えられる。

こうした新たに浮上した問題に答えるために、次の仮説を立てた。すなわち、有権者は与党に対しては不確実性を否定的に捉え、リスク回避的であるのに対し、野党に対しては不確実性を肯定的に捉え、リスク受容的なのではないか。これは、有権者は野党に対しては政治や経済の行き詰まりを打開する役割を期待しており、ある程度の野党の政権担当能力を前提とした上でより「何をしでかすかわからない」不確実な野党で「ギャンブル」をするのを好むということの意味する。

図3. 自民党の不確実性が自民党への期待に与える影響

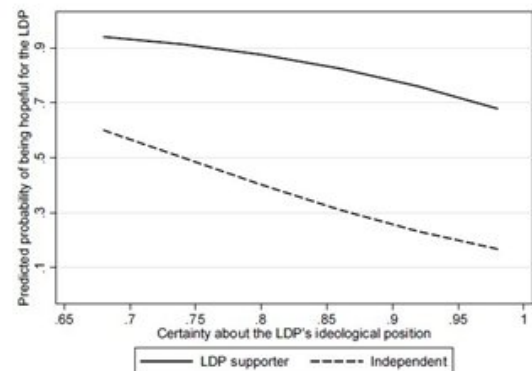
(2010年参院選)



この可能性を示したのが、図3と4である。これらによると野党自民党に不確実性を感じる有権者ほど、自民党に期待を抱く一方、与党民主党に不確実性を感じる有権者ほど、民主党に期待を抱かない。すなわち、有権者は与党と野党とでは別の役割を期待しているのである。

図4. 民主党の不確実性が民主党への期待に与える影響

(2010年参院選)



とはいえ、これはまだ暫定的な結果であり、今後の研究課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

1. Hiro Katsumata and Takeshi Iida. 2011. "Popular Culture and Regional Identity in East Asia: Evidence from the Asian Students Survey 2008." Waseda University Global COE Program Global Institute for Asian Regional Integration Working Paper Series.
2. 飯田健・松林哲也. 2011年. 「選挙研究における因果推論の研究動向」『選挙研究』27号(1), pp.101-119.
3. 飯田健. 2011年. 「計量分析を初めて学

- ぶあなたへ」鴨川明子編著『アジアを学ぶ：海外調査研究の手法』勁草書房，pp.17-30.
4. Takeshi Iida and Tetsuya Matsubayashi. 2010. "Constitutions and Public Support for Welfare Policies." *Social Science Quarterly*, 91-1, pp.42-62.
 5. 飯田健. 2010年. 「オバマ支持連合の政策選好：政権運営へのインプリケーション」吉野孝・前嶋和弘編著『オバマ政権はアメリカをどのように変えたのか：支持連合・政策成果・中間選挙』東信堂，pp.5-27.
 6. 飯田健・上田路子・松林哲也. 2010. 「世襲議員の実証分析」『選挙研究』26号(2)，pp.139-153.
 7. 飯田健. 2009年. 「投票率の変化をもたらす要因：投票参加の時系列分析」『選挙研究』25号(2)，pp.107-118.
- [学会発表] (計 10 件)
1. 飯田健. 2011年. 「保守主義の形成における政治的・社会的要因：日米保守主義の比較実証分析」日本政治学会，岡山大学，2011年10月.
 2. Takeshi Iida. 2011. "Collective Identity Perceived by Others: The Determinants of Japanese Attitudes toward South Korea and North Korea." Paper presented at the Annual Meeting of the Southwestern Political Science Association, Las Vegas, NV, March 2011.
 3. Takeshi Iida. 2011. "Why Do Voters Become Hopeful for New Leadership?: Voter Risk Attitude and Hope for Opposition Party." Paper presented at the Annual Meeting of the Southern Political Science Association, New Orleans, LA, January 2011.
 4. Tsuyoshi Adachi, Takeshi Iida, Masahisa Endo, and Kohei Kamaga. 2011. "Under What Condition Can Voters Make Rational Choice?: Voter Preference and Choice in Old-Age Pension Reform in Japan." Paper presented at the Annual Meeting of the Southern Political Science Association, New Orleans, LA, January 2011.
 5. 浅古泰史・飯田健・上田路子・松林哲也. 2010年. "Political Dynasties and Democratic Representation in Japan." 日本経済学会春季大会，千葉大学，2010年6月.
 6. 飯田健. 2010年. 「有権者の失望、期待と政権交代：早大・読売共同調査の分析」日本選挙学会，明治大学，2010年5月.
 7. Takeshi Iida. 2010. "Disappointment, Hope, and Government Change: Emotions and Voting Behavior in the 2009 Japanese General Election." Paper presented at the Annual Meeting of the Southern Political Science Association, Atlanta, GA, January 2010.
 8. Atsushi Osaki, Takeshi Iida, Tak-Lai Ke, Yuji Kobayashi, Yuko Takano, Ai Takeuchi, Daisuke Udagawa, and Motoki Watabe. 2010. "Information Environment and Voters' Sense of Responsibility." Paper presented at the Annual Meeting of the Southern Political Science Association, Atlanta, GA, January 2010.
 9. 飯田健・上田路子・松林哲也. 2009年. 「世襲議員と民主政治」日本政治学会，日本大学，2009年10月.
 10. Takeshi Iida. 2009. "Why Do People Vote "Incorrectly?": Risk Attitudes in Voting Behavior." Paper presented at the Annual Meeting of the American Political Science Association, Toronto, Canada, September 2009.
- [図書] (計 1 件)
1. 田中愛治・河野勝・日野愛郎・飯田健・読売新聞世論調査部『2009年、なぜ政権交代だったのか：読売・早稲田の共同調査で読みとく日本政治の転換』. 勁草書房.
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
飯田 健 (Takeshi Iida)
神戸大学・大学院法学研究科・特命講師
研究者番号：50468873
 - (2) 研究分担者
 - (3) 連携研究者